

## ＜研究主題及び副題＞

**「人との関わりを広げる授業づくり」**  
**～自分の気持ちを表し、伝える姿を目指して～**  
 (2年次／2年計画)

**I 研究の概要****1 主題設定の理由**

分教室の児童生徒は、それぞれ思いをもち、周囲からの働き掛けに自分なりの方法で気持ちを表している。しかし、そこで生じた思いを周囲の人が分かるように伝えることが難しいため、私たち教師は児童生徒をよく観察し、心の動きや感じ方、思いに気づき、受け止め、思いに寄り添いながら応じる関わりを積み重ねてきた。

これまでの取組から、分教室の児童生徒の目指す姿は、自分の気持ちを表情や発声、身体の動きで表す姿、好きなことや得意なことに自分から楽しんで取り組む姿であることを確認した。学校生活の様々な活動を通して、周囲からの働き掛けを受け止め、感じた気持ちを表し、自分の思いを伝え、関わろうとする力を育むことが、卒業後の豊かな生活につながると考える。

分教室の授業づくりにおいては、児童生徒が主体的に活動するための分かりやすい状況づくりである4つの観点「言葉掛け」「姿勢づくり」「教材・教具の工夫」「授業展開」を大切に、授業改善に取り組んできた。昨年度は、朝の活動・朝の会を取り上げ「自分の気持ちを表し、伝える姿」に焦点を当てて取り組んだ。朝の活動・朝の会は毎日取り組む活動であり、児童生徒と教師の一对一の信頼関係を基盤にし、見通しをもちながらグループの友達や教師と継続的に活動することで、グループの学習に安心感をもち、自分のやることが分かり見通しをもって取り組む姿が見られた。見通しがもてるようになると友達への関心が高まり、視線を向けたり、発声で呼び掛けたり、手を伸ばして触れようとしたりする感情の表出や自発的な動きが増えた。

今年度は昨年度の成果を生かし、「自分の気持ちを伝える姿」に焦点を当て、卒業後の豊かな生活を送るために必要な力を見据えた授業実践を行った。今年度は児童生徒数が減少し、病室・病棟から出ることができない児童生徒の割合が増えたため、朝の会・朝の活動のグループの再編成においても、関わりのもち方に更なる工夫が必要となった。そこで、昨年度に引き続き朝の活動・朝の会を検証場面とし、毎日の継続的な工夫と取組で友達や教師との関わりを培い、自分の気持ちを表し伝えることができるようにすることで、人との関わりがより広がるのではないかと考えた。

児童生徒の実態把握や目標設定、指導内容、そして個々の人との関わりを多角的、多面的に捉え、一人一人の変容を共通理解しながら評価を行い、観点を意識した授業づくりや授業改善に取り組むことで、人との関わりがより広がるのではないかと考え、本主題を設定した。

**2 研究仮説**

「自分の気持ちを表し、伝える姿」を目指した実践において、児童生徒にとって分かりやすい状況づくりである4つの観点到って指導内容・方法の工夫、評価、改善を積み重ねることで、人との関わりが広がり、自分らしく豊かな生活を送ることにつながられるのではないかと。

## II 昨年度（28年度）の研究

※詳細は「研究ゆり第18号」参照

### 1 研究計画

「自分の気持ちを表す姿」に焦点を当て、児童生徒の実態把握及び「人と関わる姿」に関する共通理解を図る。また、目標、指導内容、題材構成の検討、4つの観点に基づいた授業の評価を行いながら、人との関わりを広げる授業づくりに必要な4つの観点に沿った支援を整理する。

### 2 成果と課題

～自分の気持ちを表す姿を目指した授業づくりの実践（朝の活動・朝の会）～

#### <成果>

- ・児童生徒のコミュニケーションについてアセスメントし、グループごとに確認する機会を設けたことで共通の視点で児童生徒の実態や変容を捉えたり、以前把握した実態を振り返ったりすることができた。
- ・ケース検討会ではキャリア教育と日々の授業の関連性を意識し、卒業後の生活に向けてどのような力が必要で、今何をすべきなのかを話し合った。また、多角的な視点で児童生徒の実態や支援のあり方を情報共有することで、児童生徒に対する理解が深まり、指導の方向性が明確になった。
- ・授業づくり検討会で授業の方向性を確認・共有することで、出た意見を授業に反映させやすくなり、授業改善につなげることができた。
- ・気持ちの表出を促し、人との関わりを広げるための支援の検討、評価、改善を積み重ねることで、目指す姿へ向けた4つの観点に沿った支援が整理され、児童生徒の変容につながった。
- ・授業評価記録用紙の様式の検討・改善を重ねたことでより客観的な評価ができるようになり、児童生徒一人一人のより細かい変容について共有するツールとして活用できた。

#### <課題>

- ・アセスメントチェックリストはチェック項目の評価が難しい場合があるため複数の視点で検証する機会をもち、授業への生かし方を検討する。
- ・授業づくり検討会の回数を増やしたり、自主的にグループで話し合う機会を設けたりする。
- ・直接会えない児童生徒同士のグループで、人との関わりを広げる授業づくりについて検討する。
- ・「指導の手立て」の評価基準を明確にし、日常的に活用できるようにする。

## III 今年度の研究

### 1 研究計画

昨年度見通した「自分の気持ちを表す姿」が、周囲の人を意識した関わりへと広がるように、「自分の気持ちを伝える姿」に焦点を当て授業づくりを行い、児童生徒の変容や授業実践の積み重ねを通して、人との関わりを広げる授業づくりができたのかを評価する。

### 2 研究方法

(1) 自分の気持ちを伝える姿を目指した授業づくりの実践（朝の活動・朝の会）

- ①集団活動に直接参加することが難しい児童生徒の「人との関わり」や児童生徒一人一人にとっての「伝える姿」について検討し、共通理解を図りながら授業づくりを進める。
- ②昨年度導入した重度・重複障害児のコミュニケーションに関するアセスメントチェックリストを活用し、複数の支援者によるアセスメントを実施し、目標や指導内容の設定に生かす。

- ③公開授業研究会、校内授業研究会を実施し、外部専門家や校外からの参観者、校内職員等による評価を得て、より専門的、多角的に指導内容を検討する。
- ④昨年度作成した授業評価記録用紙について、日常的に活用し授業改善に生かしていけるよう、様式や活用方法を工夫する。

## (2) 授業づくり検討会の実施（グループごとに年6回実施）

朝の活動・朝の会を検証場面とし、授業づくり検討会において、目標、指導内容、題材構成等の検討、評価を行い、授業改善を図る。

## (3) ケース検討会（児童生徒一人につき年3回実施する）

個別の指導計画を活用しながら児童生徒一人一人の実態、目標及び「自分の気持ちを表し、伝える姿」について共通理解を図るとともに、前期末・年度末に児童生徒の様子や変容を基に評価・確認し、成果・課題から改善点を見出して、以降の指導に生かす。

## (4) 自立活動学習会及び教材・教具研修

校内外の人材を活用しながら、自立活動や教材・教具についての研修を実施し、専門性の向上や日々の授業改善に役立てる。

## 3 研究の実際

道川分教室の児童生徒は、全員が独立行政法人国立病院機構あきた病院の重症児（者）病棟に入院している。近年、児童生徒が減少してきている上、体調や各病棟の状況等から活動できる場所に制限がある児童生徒が増えてきたため、学習内容に応じた柔軟なグルーピングを工夫して集団活動の確保に努めてきた。

朝の活動・朝の会においては、学部や学年の枠を外し年間を通して集まることが可能な3グループを編成した。グループ数は昨年度と同じだがメンバーは替わり、自室で過ごすため同じ病棟にいても会う機会がない児童生徒の組み合わせがあったり、2名のみグループがあったりと、活動の内容や展開の仕方により一層の工夫が必要となった。

このような状況の中、昨年度目指した「自分の気持ちを表す姿」を一步進めた「自分の気持ちを伝える」に焦点を当てて、人との関わりを広げる授業づくりに取り組んだ。

### (1) 各グループの実践

#### ①南グループ

##### ア 実態

- ・高等部2年女子2名、3年女子2名の計4名で、内3名が過年度の卒業生である。
- ・4名とも体調が安定しており、病棟内外への移動許可が出ているため、他の学習においても一緒に学習する機会が多い。友達への興味が出てきている。
- ・提示された物を注視し、自分から触れたりつかんだりすることができる。

##### イ 年間計画（総時数175時間）

- ・学校生活の始まりを意識し、期待感をもつ。
- ・発声や表情、身体の動きで自分の気持ちや意思を伝えようとする。
- ・友達や教師に注目したり触れ合ったりして関わりを楽しむ。

ウ 授業実践 南グループ 題材名「朝の活動・朝の会」

実態把握・目指す姿（前期）	授業づくり検討会から（前期）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師からの働き掛けを待っていることが多いが、笑顔や発声、腕の動きで応えることができる。自分の気持ちを積極的に表してほしい。</li> <li>・朝の会の流れやグループのメンバーが変わったことで、緊張や不安の表情が見られる。友達同士の関わりを広げてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見通しをもてるように同じ流れで繰り返し行う。各係の担当を固定する。</li> <li>・意欲、期待感が高まるように好きな活動、得意な活動を取り入れる。</li> <li>・教師からの問い掛けに応える経験を重ねる。</li> <li>・友達や教師を意識できるような並び方や教師の位置を工夫し、関わりをもてる活動を取り入れる。</li> </ul>

人との関わりを広げる有効な手立て	生徒の様子
<b>○質問に応える場面の設定</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「〇〇さんはどこにいますか」</li> <li>・「季節の発表をするのは誰ですか」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回、同じ場面で同じ質問を繰り返すうちに、教師の言葉を聞いて考え、視線や発声で応えることができるようになってきた。</li> </ul>
<b>○並び順、車椅子の高さや角度の調整</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相性、見え方などに配慮した並び順にする。</li> <li>・活動内容に合わせて車椅子を調整する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の実態に沿った並びになったことや姿勢が整ったことで集中力が増し、目の使い方、道具の操作などがスムーズになった。</li> </ul>
<b>○得意なことを生かした教材</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ひもを引く（季節BOX）</li> <li>・スイッチを押す（日付の発表）</li> <li>・カードを選ぶ（天気）</li> </ul> <b>○注目したくなる教材</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・はてなBOXから教材を出す</li> <li>・ボール（元気調べ）・人形（季節の歌、詩）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・得意なことを生かした係活動に継続的に取り組んだことで、自分の係だという気持ちが高まり、積極性や自発性が出てきた。</li> <li>・ビーチボールは「元気調べ」、人形は「季節の歌」というように、出てきた教材を見て活動内容を予測できるようになった。</li> </ul>
<b>○『季節』をテーマに</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・季節の詩 ・季節の歌 ・季節の風物</li> </ul> <b>○好きな活動</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歌 ・繰り返しの言葉 ・外での朝の会</li> </ul> <b>○友達と関わり合う活動</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他グループへの挨拶タイム</li> <li>・道具の受け渡し（タオル、ボール）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・季節の歌や教材が変わったときは戸惑う様子が見られたが、数日で変化を受け入れることができた。</li> <li>・朝の会に対する期待感や意欲が高まり、発声や表情、腕の動き等が活発になってきた。</li> <li>・他グループの友達とも緊張せずに挨拶できるようになってきた。また、一生懸命腕を動かして友達に道具を渡そうとするようになった。</li> </ul>



実態を考慮した並び



得意なことを生かした係活動







イルカと一緒に詩の朗読



他グループの友達と挨拶

実態把握・目指す姿（後期）	授業づくり検討会から（後期）
<b>後期に向けての改善点</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動内容が多く、時間不足になることがあるため、活動内容の精選や時間配分の見直しをする。</li> <li>・仲間としての一体感を感じられるように、友達同士の活動や全員で行う活動などを取り入れる。</li> <li>・詩を取り入れたねらいを整理し、題材分析を行い、生かし方を考える。</li> </ul>	

<ul style="list-style-type: none"> <li>・方法は様々だが、呼名に対して返事をしたり教師からの問い掛けに応えたりするようになった。朝の会全体を通して自分の気持ちを積極的に伝えてほしい。</li> <li>・係活動に自信をもち、意欲が高まっている。係が変わっても進んで取り組んでほしい。</li> <li>・友達をよく見て道具の受け渡しをしたり、係活動に取り組む友達を応援したりするようになった。より積極的に関わり合っ、楽しい時間を共有してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・呼名（元気調べ）は定着してきたため、自分から返事ができるように見守る支援をする。</li> <li>・係活動の担当を変える。自分がやりたい係を選ぶ経験をさせたい。</li> <li>・詩の朗読は言葉のリズム、言葉に沿った絵や写真などから感じた気持ちを自由に表現したり、楽しさを友達と共有したりするねらいで行う。</li> <li>・授業評価記録用紙は、毎日回覧して記入する。授業改善に生かせるように、気付いたことやトピックスも記入し、適宜話合いの機会をもつ。</li> </ul>
--	--

人との関わりを広げる有効な手立て	生徒の様子		
<p><b>○言葉掛けのタイミングと言葉の精選</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶や返事の促しを控え、表出を待つ。挨拶の返し方や称賛の言葉を精選する。</li> </ul> <p><b>○詩の朗読や歌の工夫</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・緩急や強弱の付け方・役割の明確化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝、会った時に教師と視線が合うと、自分から発声や笑顔、腕の動きで挨拶をするようになった。</li> <li>・歌や詩の朗読の活動になると、顔を上げて期待する様子が見られた。歌や詩の朗読が始まると表情の変化や発声が活発になり、躍動感が生まれた。</li> </ul>		
<p><b>○移動、配置の変化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の所に移動して教材の受け渡しをする。</li> <li>・輪になって歌ったり、詩を読んだりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・移動や配置の変化によって、活動にメリハリがついた。移動するように言葉を掛けられると、表情が華やぎ、意欲的に取り組むことができた。</li> </ul>		
<p><b>○流れは変えず、活動内容をアレンジ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「元気調べ」の活動内容を精選する。</li> <li>・詩の朗読は、読み方、写真提示の仕方などを工夫しながらじっくり取り組む。</li> </ul> <p><b>○選択する場面の設定</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・元気調べでボールを渡す相手を選ぶ。</li> <li>・係活動を固定せず、やりたい係活動、一緒に行う友達を自分で選ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「元気調べ」の活動内容を精選したことで、集中力が増し、すぐに返事をしたり力を込めてボールを転がしたりするなど、自発的な動きが増えた。</li> <li>・詩の楽しさを知り、感情の表出が豊かになった。</li> <li>・自分がやりたい係活動を考えて教師に伝えてくるようになり、指名されると意欲的に取り組んだ。</li> <li>・視線や発声で友達を選べるようになり、指名された側の生徒も喜ぶ様子が見られた。</li> </ul>		
 <p>緩急、強弱をつけた朗読</p>	 <p>移動してボールを渡す</p>	 <p>やりたい係を選択</p>	 <p>友達と一緒に係活動</p>

## エ 成果と課題

### <成果> **経験の積み重ね**

- ・教師からの問い掛けを聞き、考え、応えるという活動の中で、自分の思いを相手に伝える楽しさを経験したことで、友達や教師ともっと関わりたい、伝えたいという意欲が出てきた。
- ・楽しい雰囲気の中で生徒同士が関わり合える活動を継続したことで、友達との自然な関わりが増えた。

### <課題> **力を発揮できる場面の拡大**

- ・他の学習場面や病棟内では受身になってしまうこともまだ多い。職員間で共通理解を図りながら朝の会以外の場面でも自分の気持ちを表現できるように継続して取り組んでいきたい。

## ②北1グループ

### ア 実態

- ・ 中学部1名、高等部1名の計2名からなるグループである。
- ・ 集団のにぎやかな雰囲気を感じて笑顔になったり身体を動かしたり、友達の姿を見ようと視線を動かしたりするようになってきた。

### イ 年間目標（総時数175時間）

- ・ 登校準備を通して学校の始まりを意識し、学校への期待感をもつ。
- ・ 自分の得意な動きを生かしながら返事や係活動に取り組む。
- ・ 友達や教師の様子に関心をもって視線を向けたり、働き掛けに気付いて自分の気持ちを表情等で表したりする。

### ウ 授業実践

#### 北1グループ 題材名「朝の活動・朝の会」

実態把握・目指す姿（前期）	授業づくり検討会から（前期）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 聴覚優位で、小集団の授業の中で繰り返し関わっている教師や友達の声はよく覚えている。担当以外の関わりに表情や身体の動きで応えるようになってほしい。</li> <li>・ 状況の変化に戸惑い、馴染むまで時間がかかることが多い。今年度の朝の会に見通しをもち、友達への関心を高めたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音や声を聞き分けられるように、静かな環境づくりに努める。</li> <li>・ 関わりが広がるように、他グループの友達や教師から声を掛けてもらう機会を増やす。</li> <li>・ 見通しをもてるようになっていた昨年度の朝の会の流れや係活動をできるだけ踏襲した形で行う。会の流れや自分の係活動に変化を付ける際には、一度に複数の課題を設定せず、一つずつ定着を図っていく。</li> </ul>

関わりを広げるために有効な手立て	生徒の様子
<p>○音や声に集中できる環境づくりの工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機器のアラーム音や通行する人が少ない場所を選ぶ。</li> <li>・ 他病棟の友達や教師と関わる際には、一人ずつ声を掛けてもらう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音や教師の声に集中し、係の依頼や呼名されることが分かり、タイミングよく応えることが増えてきた。</li> <li>・ 他病棟の友達や教師と関わる際、声が重ならないようにグループ間で共通理解して取り組んだ。次第に声を覚え、緊張せずに目や口を動かして応えるようになった。</li> <li>・ 進行する教師が変わるとすぐに気づき、戸惑って不安な目の動きを見せたり身体を硬くしたりしていた。教師の言葉掛けを固定し、毎日繰り返すことで徐々に慣れ、教師の言葉掛けに応じて目や口、腕の動きが見え始めた。</li> <li>・ 個々の動きに合った補助具が動作の確実性につながった。自分の動きが結果として音となることが分かり、係活動への意欲が高まった。</li> </ul>
<p>○言葉掛けの精選・固定化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関わりを広げるため、学期ごとに進行役の教師を交替する。</li> <li>・ 進行役の教師が交替しても生徒が混乱しないように、会の流れや係等を依頼する言葉掛けを固定する。</li> </ul>	
<p>○表出や動きを引き出す補助具の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ スイッチ教材や楽器を操作しやすいように、肘置きや固定クリップ等で調整する。</li> </ul>	



病棟デイコーナーでの朝の会



「朝の歌」係（棒スイッチ）



「始まり・終わりの合図」係（キーボード）

### 後期に向けての改善点

- ・ 友達を意識してより気持ちの表出を促すために、教師は読み取りを丁寧に行い、友達の様子に関心をもてるように言葉掛けをしていく。
- ・ より自発的な動きを促すことができるように、スイッチ教材等の工夫をする。

実態把握・目指す姿（後期）	授業づくり検討会から（後期）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・手に刺激を受けると手や腕を動かすことが多い。友達の力を感じ、様々な感情を表出してほしい。</li> <li>・教師の掛け声に合わせて、スイッチを押そうとすることが増えてきた。確実に操作できるようになってほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の力に合ったゴムひもを使い、引き合う活動を取り入れる（それぞれタイム）。実際の場面では、教師が頑張りを認めて勝敗を伝えていく。</li> <li>・更に取り組もうとする意欲が高まり達成感を味わうことができるように、生徒の腕の動きや力の強さに合ったスイッチ教材の検討が必要である。</li> </ul>

関わりを広げるために有効な手立て	生徒の様子
<p>○操作性を高める教材・教具の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・より少ない力で操作できるスイッチ教材を工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・棒スイッチからより少ない力で操作できるワイヤースイッチに変更し、操作の確実性が更に高まった。称賛されると笑顔で何度もスイッチを押す姿が見られた。</li> <li>・友達の係に関心が高まり、歌や合図の音にうれしそうに反応するようになった。係を交替すると、意欲的に取り組んだ。また、交替前の係を友達が行うと「自分の係なのに」と複雑な表情になり、強い関心を示した。</li> <li>・相手の力を感じると手に力を入れたり腕を引いたりして楽しむ様子が増えた。また、「そーれ、そーれ」の掛け声で腕を動かすようになり、朝の会以外でも同じような場面で友達と楽しく関わる事ができた。</li> <li>・それぞれタイムの勝敗を告げたときに見せる微細な表情を教師が読み取り、「勝ってうれしいね」「負けて悔しいね」等と共感し、他の生徒にも伝えることを繰り返したところ、表出される表情に変化が出てきた。</li> </ul>
<p>○意欲や表出を引き出すための授業展開</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・係活動を交替する。 （「朝の歌」係と「始まり・終わりの合図」係の交替）</li> </ul>	
<p>○互いを意識し関わり合える活動の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・互いの動きや力の強さを感じるゴムひも引きの活動（それぞれタイム）を設定し、楽しい雰囲気で行う。</li> </ul>	
<p>○教師の読み取りと意味付け</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感情の表出を促すことができるように、教師が丁寧に読み取りをして意味付けをして伝えていく。</li> </ul>	



「朝の歌」係（ジェルベーンスイッチ）



「始まり・終わりの合図」係（キーボード）



「それぞれタイム」の様子

## エ 成果と課題

### <成果>

#### ステップアップを支える分かりやすい状況づくり

- ・昨年度の朝の会の流れや係活動を踏襲した形でスタートし、精選した言葉掛けで繰り返し関わる等、生徒にとって分かりやすい状況づくりに努めた。朝の会の全体像が分かると係活動等の部分的な変化に戸惑いが少なく、停滞することなく活動に取り組み、返事やスイッチ操作の向上につながった。

#### 表出を促す表情の読み取りと意味付け

- ・教師の問い掛けに目や口、腕の動きで応えようとする事が多く見られるようになった。表情の読み取りを丁寧に言い、表出に意味付けし、それに応じた関わりを積み重ねる中で、表出される表情に更に変化が見られるようになった。

### <課題>

#### 映像等での分かりやすい伝達の工夫

- ・他の授業の場面で担当以外との関わりを深めるためには、気持ちに寄り添った関わり合いが大切である。生徒の微細な表出とその意味するところを担当が映像等を利用して、他の教師にも分かりやすく伝え共通理解を図る必要がある。

### ③北2グループ

#### ア 実態

- ・小学部1名、高等部2名の計3名からなるグループで、うち1名は過年度の卒業生である。また3名の内2名が自室でベッドサイド学習を行っている。
- ・慣れた人の声のする方向に視線や顔を向けたり、グループの朝の歌が始まると目を大きく開くなど表情を変化させたりする姿が見られるようになってきている。

#### イ 年間目標（総時数175時間）

- ・登校準備を通して学校の始まりに気付き、学習への期待感をもつ。
- ・集団の中で返事や係活動に取り組み、表情や身体の動きで自分の意思を表す。
- ・グループの友達や教師との触れ合いを通して、感じた気持ちを表情や身体の動きで表す。

#### ウ 授業実践

##### 北2グループ 題材名「朝の活動・朝の会」

実態把握・目指す姿（前期）	授業づくり検討会（前期）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師や友達の様子を気にしている。教師からの働き掛けに、視線や表情、身体の動きで応じてほしい。</li> <li>・歌や係活動などを通して教師や友達と触れ合い、表情の変化や身体の動きで気持ちを表してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝の活動時に、それぞれの児童生徒にじっくり挨拶したり握手したりして関わる。</li> <li>・会の始まりに気付くように、朝の歌と使用する楽器を固定する。係活動は、手の動きを生かして操作できるものを準備し、部屋の状況に合わせて臨機応変に車椅子の配置や教材の提示場所を工夫する。</li> </ul>

研究主題に係る有効な手立て	児童生徒の様子
<b>○朝の会の内容の精選と教材の準備</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝の会の流れに見通しをもちやすいように、一つの項目に対して一つの教材を使用して進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝の歌のギターの前奏が始まると会の始まりに気付き、目を大きく開いたり手を動かしたりするようになった。</li> <li>・健康観察や天気など項目ごとに教材を準備し、物と人との関わりを通して流れに見通しをもってきた。</li> </ul>
<b>○係活動の設定</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・天気や日付の発表、歌の選曲などの係を設け、児童生徒の手の動きを生かし、操作できる教材・教具の工夫をする。</li> <li>・友達同士の関わりの機会を増やす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・得意な腕や指の動きでひもやスイッチを動かして教材を操作することができた。また、操作後に光る、震えるなど動きのある教材を準備したことで、自分で係を達成したことに気付くことができ、表情の変化で気持ちを表していた。</li> <li>・天気や選曲について教師と一緒に友達に伝えたり、教材を見せたりするなどのやり取りを通して、少しずつ集団での活動に慣れ、落ち着いた表情で参加している様子が見られた。</li> </ul>



友達と握手による挨拶



朝の歌の様子



スイッチによる選曲



点灯による天気発表

#### 後期に向けての改善点

- ・前期欠席が多かったベッドサイド学習の生徒の体調が安定してきたので、グループの友達や教師と一緒に活動する場面を増やし、より関わり合える内容や教材を検討する。





実態把握・目指す姿（後期）	授業づくり検討会（後期）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉掛けに対し顔の向きや身体の動きで応えるようになった。</li> <li>・iPad 中継では、画面に目を向けたリ耳を傾けたりして友達とのやり取りに関心をもってほしい。</li> <li>・友達の関わりに視線や表情、身体の動きで気持ちを表現してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二部屋の学習場所を1名の生徒と教師が行き来し、グループの動きを確立して友達との関わり合いを大事にする。</li> <li>・iPad 中継を利用してグループ3名全員でやり取りする時間を毎日設定する。</li> <li>・毎朝挨拶に来る他グループの友達との関わりの時間も大切に、表情の変化、気持ちの表出等を読み取る。</li> </ul>

研究主題に係る有効な手立て	児童生徒の様子
<p>○ベッドサイド学習の児童生徒がグループ全員と関わるための工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日 iPad を利用して二部屋を中継する。</li> <li>・朝の会の内容を3人の教師で分担し、移動できる生徒と二部屋を回って集団活動を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝の会の始まりの5分間、iPad 中継を利用して挨拶と健康観察を行った。画面に関心をもって見たり、口を動かして呼び掛けに応じたりしていた。</li> <li>・その日の児童生徒の体調等を確認し、教師の回り方や時間の調整を行った。友達や教師とのやり取りに慣れ、部屋に来た友達や教師を見て確認したり、にぎやかな雰囲気を感じて顔を上げたりと様々な変化が見られた。</li> </ul>
<p>○気持ちの表出を引き出す活動内容の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・季節の歌や手遊び歌で曲やリズムに合わせて触れ合う。</li> <li>・日付や天気の発表を日替わりで交代して行い、やり取りを通して友達や教師と関わる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・季節の歌では、ギター音色や歌声にじっと耳を澄ましたり、リズムに合わせて教師と一緒に楽器を鳴らしながら口を動かして気持ちを表したりしていた。</li> <li>・教材を使用して日付等の発表を繰り返し行うことで、手にかかったひもを握ったり引っ張ったりして操作するようになった。また友達の応援や称賛に対して、顔を上げたり手に力を入れたりして応える姿が見られるようになった。</li> </ul>



iPad 中継で挨拶や健康観察等を行っている様子



季節の歌の様子



手遊びの様子

## エ 成果と課題

### <成果> 集団活動のもち方と教師の役割分担

- ・後期から朝の会を iPad 中継した後に教師が二部屋を回る流れを継続したことにより、ベッドサイド学習の児童生徒がより多くの人と関わる時間を確保することができた。どちらの部屋でも同じ活動に取り組み、友達と関わりながら充実した時間を過ごすことで、働き掛けに対しての表情の変化や身体の動きなどに様々な変化が見られ、感じた気持ちを表現するようになった。

### <課題> 評価記録表の活用

- ・児童生徒の反応を読み取り、周囲に伝えていくために記録の取り方、生かし方を工夫する。また新しい反応や表出を引き出すために、内容や教材について評価記録表を活用して話し合いを重ねていく。

## (2) 授業づくり検討会（6回実施）

研究対象の「朝の活動・朝の会」の授業づくりを目的として、グループごとに年6回実施した。昨年度から回数を3回増やして指導内容、題材構成等の検討、評価をきめ細かく行い、授業改善につなげることができた。授業評価記録用紙の記録を、評価や改善策の検討時に活用できた。

## (3) ケース検討会（3回実施）

個別の指導計画を活用し児童生徒一人一人の目標や手立て及び評価、支援のあり方について共通理解することを目的として年3回実施した。小グループで行うことで、複数の視点から児童生徒の変容や支援のあり方を捉えることができ、日々の授業に生かすことができた。また、記録を回覧することで、全職員で情報を共有することができた。

＜表1＞ 分教室研究会、授業づくり・ケース検討会、自立活動学習会、研修会実施一覧

月	研究内容	実施した具体的な内容
4	自立活動学習会①、②、③	・①自立活動について、②教材・教具の紹介、③摂食指導について
	授業づくり検討会Ⅰ	・朝の活動・朝の会のあり方・内容についての検討、共通理解
5	ケース検討会Ⅰ	・実態、目標、「自分の気持ちを表し、伝える姿」の共通理解
	分教室研究会①	・今年度の研究計画について
6	授業づくり検討会Ⅱ	・児童生徒の実態、目標、手立ての共通理解 ・指導目標や指導内容、題材構成の確認、検討
7	指導主事計画訪問	・授業提示、指導助言を受けての授業改善
	公開授業研究会事前訪問	・講師：秋田大学教育文化学部 准教授 高田屋陽子 氏 授業参観、指導助言
	授業づくり検討会Ⅲ	・これまでの成果と課題を確認、2学期に向けた授業改善を検討
	自立活動学習会④	・東北病連研究協議会発表原稿読み合わせ
	教材・教具研修会①	・講師：秋田県立大学 准教授 高山正和 氏
8	指導案検討会①（グループ）	・授業研究会に向けた指導案検討
	自立活動学習会④	・障害の重い子どもの見ることを支えるアセスメントと支援
	公開授業研究会事前授業研①	・南グループの研究授業、授業研究会
9	公開授業研究会事前授業研②	・北1グループの研究授業、授業研究会
	ケース検討会Ⅱ	・実態、目標、「自分の気持ちを表し、伝える姿」の中間評価
	公開授業研究会	・南グループ、北1グループの研究授業、授業研究会 指導助言、講演：秋田大学教育文化学部 准教授 高田屋陽子 氏
	授業づくり検討会Ⅳ	・朝の活動・朝の会における前期の振り返り、後期に向けて
	分教室研究会②	・前期の成果と課題の共通理解、後期に向けた授業改善
10	指導案検討会②（グループ）	・授業研究会に向けた指導案検討
11	校内授業研究会	・北2グループの研究授業、授業研究会
12	教材・教具研修会②	・講師：秋田県立大学 准教授 高山正和 氏
	授業づくり検討会Ⅴ	・朝の活動・朝の会における成果と課題の整理及び検証、児童生徒の変容の共通理解
	分教室研究会③	・研究の評価及び課題の整理
1	研修報告会①	・東北病連研究協議会山形大会報告 ・秋田きらり支援学校、大曲支援学校公開研究協議会報告
	授業づくり検討会Ⅵ	・各グループの取組のまとめと研究紀要に向けて
2	分教室研究会④	・研究のまとめと研究紀要原稿の検討
	ケース検討会Ⅲ	・児童生徒の変容、次年度のねらいについて
3	分教室研究会⑤	・研究のまとめと次年度計画に向けて
	研修報告会②	・秋田県教育研究発表会報告
	合同研究会	・本校、分教室相互の研究のまとめ

#### (4) 自立活動学習会

専門性の向上と、授業づくりに役立てることを目的として、年4回実施した。

#### (5) 教材・教具研修会

##### ①ねらい

児童生徒の活動意欲につながり、自発的に取り組みやすい教材・教具を製作し授業に活用する。  
また、専門家から作り方の指導を受け、教師の製作意欲につなげる。

##### ②期日

第1回 平成29年7月24日



第2回 平成29年12月11日

場 所 秋田県立大学本荘キャンパス 創造工房

講 師 秋田県立大学システム科学技術部 准教授 高山正和 先生

##### ③実施にあたって

職員にアンケート調査を実施し、昨年度の研修の反省からグループではなく、個人で全工程を製作したいという点を考慮して、スイッチ教材を製作する研修会を計画した。

研修会（7月・12月）				
名称	棒スイッチ ワイヤースイッチ	おにぎりスイッチ (フットスイッチ)	握りスイッチ	修 理 (故障していたVOCA)
写真				

##### ④研修内容

昨年度までは1つの教材を数人のグループで製作していたが、昨年度の反省を生かし、一人一人の力量を高めるために一人一製作とした。担当する児童生徒に使いたいスイッチ教材の希望を出し、事前に講師の先生に相談してはんだ付けや配線図のつなぎ方等の手順表を準備し、メンバー同士で確認したり教え合ったりしながら取り組んだ。

昨年度まで研修の回数を重ねてきた職員は教材の製作に慣れてきており、一人でも準備から製作まで自主的に取り組む様子が見られた。冬の研修では、夏とは別の教材づくりに取り組んだが、前回製作した経験を生かして、分かりづらいところを職員同士で教え合う場面も見られた。製作した教材は持ち帰り、授業に活用した。

## 4 成果と課題

### <成果>

#### (1) 人との関わりを広げる授業づくりはできたか

##### 多角的・多面的視点による児童生徒の実態把握と共通理解

- ・アセスメントチェックリストを活用し、複数の教師による児童生徒のコミュニケーションについてのアセスメントを実施し、昨年度からの児童生徒の変容や今後の目標設定についてケース検討会や授業づくり検討会で検討した。

- ・キャリア教育の視点を意識して児童生徒個々の目指す姿を話し合い、共通理解した。



共通の視点で児童生徒の実態や変容を捉えるとともに、児童生徒個々の「卒業後の目指す姿」「朝の活動・朝の会で目指す自分の気持ちを伝える姿」について共通理解し、目標設定や授業づくりに生かすことができた。(表2参照)

#### **授業の方向性の共有と評価、授業改善**

- ・授業づくり検討会の回数を増やして定期的に授業の在り方や児童生徒の変容について評価、確認し、指導目標や内容・題材構成の改善について話し合った。
- ・授業評価記録用紙の様式を見直し、グループの実情に応じて改良することで継続的に記録できるようになり、評価や改善案の検討に役立てることができた。



指導主事計画訪問や公開授業研究会等、学校外部からの評価を受けたタイミングで授業づくり検討会を実施する等の工夫で、受けた評価や意見を素早く検討し、授業改善に反映させることができた。



授業評価記録用紙を継続的に活用することで、改善点が出てきた際に授業づくり検討会を待たずに、随時対応して検討、改善していくことができた。(表3参照)

#### **グループ編成とグループ間の連携**

- ・グループ編成を工夫した結果、昨年度よりも安定して児童生徒が朝の会に参加できるようになり、計画的・継続的に活動できるようになった。
- ・3グループ中、2グループ(北1、北2)が病棟内に活動場所が制限されているため、活動制限のない1グループ(南)の生徒が朝の活動の時間に他グループの病棟を訪問し、他病棟の児童生徒と関わる時間を設定した。



毎回同じメンバーで継続して朝の会を実施し、児童生徒のニーズに応じた活動を積み重ねることで、児童生徒は安心感と見通しをもって参加できるようになった。他グループも含めた友達や教師への意識も広がるなど、変容につながった。

#### **昨年度の成果を生かした継続的な実践の積み重ね**

- ・道川分教室の授業づくりにおける児童生徒が主体的に活動するための分かりやすい状況づくりである4つの観点「言葉掛け」「姿勢づくり」「教材・教具」「授業展開」について、昨年度の研究で整理した効果的な手立てを引き継いで授業づくりを進めた。昨年度の成果を継承することで、各グループの実態に応じて早期から授業づくりを進め、気持ちの表出を促し、人との関わりを広げるために必要な指導内容・方法や教師の支援について検討・評価・改善を積み重ねることができた。



目指す姿へ向けた4つの観点に沿った支援が継続的・効果的に行われ、児童生徒が友達や教師を意識するとともに、自分の気持ちを表し、伝える場面が多く見られるようになるなど、変容につながった。

＜表2＞児童生徒の「自分の気持ちを表し、伝える姿」について

児童生徒の「自分の気持ちを表し、伝える姿」について（北2グループ）				
氏名	実 態 (コミュニケーションを中心に)	卒業後の目指す姿 (キャリア教育の視点から)	朝の活動・朝の会での目指す 「自分の気持ちを伝える姿」	朝の活動・朝の会における手立て (4つの観点から)
E	<ul style="list-style-type: none"> <li>話し掛けられると、耳をすましてじっと聴いている。声を覚えてくると、呼び掛けに応えようとして顔や身体を声のするほうに向ける。</li> <li>好きな音楽を聴いたり、楽しい雰囲気を感じたりしたときは、口や手を動かして、気持ちを表す姿が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活リズムが整い、安定した体調で生活している。</li> <li>周囲の人との触れ合いや活動に関心をもち、表情や身体の動き気持ちを伝えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師や友達の呼び掛けに口を動かしたり、声のする方に顔を向けたりする。</li> <li>教師や友達と活動する楽しさを感じ、表情や身体の動きで気持ちを表す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>表情を見ながらはっきりとした口調で話し掛ける。(言葉)</li> <li>友達とできるだけ近くで活動できるように、車椅子や人工呼吸器の位置を調整する。(姿勢)</li> <li>係活動の教材を自分で腕を動かして引けるように、指の間にひもをはさんで握りやすくする。(教材)</li> <li>友達や教師と活動する楽しさを感じるように、会のもち方を工夫して集団で行えるようにする。(展開)</li> </ul>
F	<ul style="list-style-type: none"> <li>24時間酸素マスクを着用しているので、表情を読み取るのが難しいこともあるが、声を掛けられた方向に視線を移すようにして周囲の様子を伺う姿が見られる。</li> <li>体調がよいときは、表情や目、手指の動きも活発になり、「あー」と発声をする姿も見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>安定した体調を維持しながら病院生活を送っている。</li> <li>呼名などの呼び掛けや日常的な言葉掛けに対して、表情や目や口の動き等で気持ちを表しながら生活している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師や友達の呼び掛けや挨拶に、視線や手指、口の動きで応える。</li> <li>教師や友達と活動する楽しさを感じ、視線や手指を動かして気持ちを表す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習の始まりや教師や友達に来たことが分かるように、1対1で向き合ってゆっくり挨拶や言葉掛けをして反応を待つ。(言葉)</li> <li>スイッチ教材を操作できるように、手指を動かしやすい体勢に整え、教材の位置を決める。(姿勢)</li> <li>少ない手指の動きで操作できるように、棒スイッチでルーレットを回して選曲する活動を取り入れる。(教材)</li> <li>友達や教師と活動する楽しさを感じるように、会のもち方を工夫して集団で行えるようにする。(展開)</li> </ul>
G	<ul style="list-style-type: none"> <li>担任など慣れた人の声ができる方向に視線を向けたり、顔を向けたりすることがあり、聞き分けている。</li> <li>体調がよいときには、声を掛けられたり、触れられたりすると視線を向ける姿が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活リズムが整い、健康な生活を送っている。</li> <li>好きな活動が増え、療養活動等で楽しく活動している。</li> <li>様々な人からの言葉掛けや関わりを受け入れ、表情や手の動きでコミュニケーションをとっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師の言葉掛けに、表情や手の動きで応える。</li> <li>教師や友達と活動する楽しさを感じ、視線や手の動きで気持ちを表す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒がしっかり聞き取れるように反応を見ながら分かりやすい言葉掛けを行う。(言葉)</li> <li>朝の活動や係活動などで顔や手を動かして自分の気持ちを表しやすいように車椅子に座る姿勢を整える。(姿勢)</li> <li>教材のひもを引きやすいように、教材の位置や肘の高さを調整する。(教材)</li> <li>活動に見通しをもち、安心して学習に参加できるように展開の仕方を一定にする。(展開)</li> </ul>

※ 表2はグループごとに児童生徒全員分作成し、教員間で共通理解した。

＜表3＞授業評価記録用紙（週ver.）

『授業評価記録用紙(週ver.)「朝の活動・朝の会」 南グループ (第 週)』					
氏名	本時のねらい	本時の評価の基準	月 目(月)	月 目(金)	週全体での様子・変更等
A	友達や教師に「おはよう」と声を出して挨拶する。	◎:自分から「おはよう」と言う。 ○:促されて「おはよう」言う。 △:声が出ない。			
	やりたい係の仕事を発声でアピールし、自分から積極的に取り組む。	◎:積極的に声を出し伝える。 ○:促されて声を出し伝える。 △:やりたいことを伝えない。			
	友達や教師と一緒に声を出して、歌う楽しさを味わう。	◎:歌に合わせて自分で声を出す。 ○:促されて声を出す。 △:声が出ない。			
	学校の始まりを意識し、楽しい気持ちで積極的に活動に取り組む。	◎:発声・手の動きがとても多い。 ○:発声・手の動きが多い。 △:発声・手の動きがあまりない。			
B	相手に注目し自分で手を動かしておしぼりや呼名合図のボールの受け渡しをする。	◎:自分から手を動かす。 ○:促されて手を動かす。 △:手を動かさそうとしない。			
	やりたい係の仕事を考え、積極的にやりたい気持ちをアピールする。	◎:積極的に発声や手の動きで伝える。 ○:発声や手の動きで伝える。 △:自分からのアピールがあまりない。			
C	名前を呼ばれた友達の方に顔を向ける。	◎:自分から友達の方に顔を向ける。 ○:教師の促しを受けて友達の方を向く。 △:友達の方を向うとしない。			
	自分の名前を呼ばれたら視線を合わせる。	◎:視線を合わせる。 ○:しばらくしてから視線を合わせる。 △:視線が合わない。			
D	季節のO Xに付いたひもを引っ張り続けて写真を出す。	◎:自分からひもを引く。 ○:何度か促されてひもを引く。 △:ひもを引かない。			
	教師の言葉掛けに沿って、手にタッチをして挨拶をする。	◎:すぐにタッチをする。 ○:時間は掛かるがタッチをする。 △:手を動かさそうとしない。			
D	呼名や言葉を掛けられた時に、10秒以内に声を出して応える。	◎:10秒以内に声を出す。 ○:声を出そうとする。 △:うつむいて、反応が少ない。			
	「○○さんはどこですか?」の言葉掛けに沿って、友達に視線を向ける。	◎:顔を挙げ、方向を変えて見る。 ○:言葉掛けで、視線を向ける。 △:見ようとしていない。			
観点2	指導の手立て 冬の寒気を感じながら楽しく一日をスタートできるような展開、教材・教具であったか。	◎:提示された内容を期待感をもって注目する。 ○:提示された内容を概ね注目する。 △:あまり興味を示さない。	特記事項	特記事項	次週に向けて
	発声や身体の動きで気持ちを伝えたいくなるよう言葉掛けをしていたか。	◎:言葉掛けによって発声や動作の変化が多くある。 ○:言葉掛けによって発声や動作の変化がある。 △:言葉掛けで心が動かない。			
改善に向けた取組	友達や教師と触れ合いを楽しめるような雰囲気づくりや配置がなされていたか。	◎:自分から友達に触れたり、触れられることを受け入れたりする。 ○:教師の支援を受けて触れたり触れられたりする。 △:友達に関心が向かない。			
	<気付いた課題→新たに取入れたこと・改善したこと等>				

【観点1】(生徒)本時のねらいは達成できたか(◎:できた ○:概ねできた △:できなかった) 【観点2】(教師)本時のねらい達成に向けた指導の手立ては有効だったか(◎:できた ○:概ねできた △:できなかった)

## (2) 授業づくりから明らかになった効果的な手立て

各グループの実践から明らかになった効果的な手立てを、4つの観点に沿って整理した。

観点	効果的な手立て	主な工夫及び児童生徒の変容
〈言葉掛け〉	言葉掛けの精選	・言葉掛けを精選し、毎回同じ場面で同じ質問を繰り返すことで、教師の働き掛けに応じて目や口、腕の動きが出てきた。また、教師の言葉を聞いて考え、視線や発声で応えることができるようになってきた。
	言葉掛けのタイミングと言葉の精選	・挨拶や返事の促しを控えて生徒からの表出を待ったり、挨拶の返し方や称賛の言葉を精選したりすることで、教師と視線が合うと自分から発声や笑顔、腕の動きで挨拶をするようになった。
	児童生徒の様子に応じた言葉掛け	・児童生徒の様子に合わせ、ゆっくりと挨拶や言葉掛けをしたり、握手などの体温も感じる触れ合いをしたりすることで、緊張せずに落ち着いた表情の変化をみせるようになった。
	教師の読み取りと意味付け	・表出が微細な児童生徒の表情を教師が読み取り、意味付けをして周囲に伝えることで、その児童生徒への理解が広がり、周囲からの言葉掛けが多くなることで、表出がはっきりしたり増えていたりすることにつながった。
〈姿勢づくり〉	並び順、移動車椅子の高さや角度の調整	・生徒同士の相性や見え方等に配慮した並び順を考え、活動内容に合わせて車椅子の高さや角度を調整したり位置を移動したりしたことで集中力が増し、相手を注視したりスムーズに道具を操作したりできるようになった。活動にメリハリが付き、意欲的に取り組むことができた。
	表出や動きを引き出す補助具の工夫	・スイッチ教材や楽器を操作しやすいように、肘置きや固定クリップ等で腕を動かしたり手に力を入れたりできるよう調整することで、自分から操作することが増えた。出した音を聴き目や口を動かして応えることも見られた。
〈教材・教具〉	注目したくなる教材	・ビーチボールは「元気調べ」、人形は「季節の歌」と、出てきた教材を見て活動内容を予測できるようになり、テンポよく進めたことで、集中力が増し、自発的な動きが増えた。
	得意な動きを生かす教材・教具の工夫	・ひも引き、スイッチ押し、カード選び等、得意なことを生かした係活動を継続に行ったことで係への意識が高まり、積極性や自発性が出てきた。 ・一人一人の得意な腕や指の動きを生かしてひもやスイッチを動かし操作する教材・教具を準備することで、係活動に継続的に取り組むことができた。自分から取り組もうとする姿が多く見られるようになってきた。
	通信機器の活用	・直接会えない児童生徒の病室を、iPadで中継し、グループ全員で一緒に活動する時間を設けた。関心をもって画面を見たり口を動かして呼び掛けに応じたりして、集団の関わりを感じる事ができた。
〈授業展開〉	友達と関わり合う活動の設定	・生徒同士でタオルやボールの受け渡しする活動を継続したことで、一生懸命腕を動かして友達に道具を渡そうとするようになった。 ・ベッドサイド学習の児童生徒の病室に、移動できる生徒と教師が行って一緒に活動することで、友達や教師とのやり取りに慣れ、にぎやかな雰囲気を感じて顔を上げたり、視線を向けたりと様々な変化が見られた。 ・他グループへの挨拶を継続することで、お互いを意識できるようになり、緊張せずに挨拶できるようになってきた。
	見通しをもち、活動に向かう意識を高める授業展開の工夫	・活動内容を一定にし、係活動を固定したことで、活動に向かう意識が高まり、教材を操作する動きがスムーズになった。 ・日付や天気発表の係活動を通して友達や教師と関わり、自分から道具を操作するようになってきた。また友達の応援や称賛に対して顔を上げたり表情を変えたりして応える姿が見られるようになった。 ・音の精選やシンプルな組み立て等、児童生徒にとって分かりやすい状況づくりを心掛けることで、働き掛けを受け取る力が高まり、微細であるが自分の気持ちの発信が見られるようになってきた。
	選択する場面の設定	・係活動が上手にできるようになった後、やりたい係や、受け渡ししたい相手を選べるようにしたところ、やりたいことを教師に伝えるようにな

	<p>った。指名されると意欲的に取り組み、道具の操作性も向上した。指名された側の生徒も喜ぶ様子が見られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の係に関心が高まり、係を交替してやってみると意欲的に取り組んだ。</li> </ul>
「季節」をテーマに	<ul style="list-style-type: none"> <li>・季節に合わせて詩や歌、写真教材を変更し、季節を感じられるようにした。変更したときは戸惑う様子が見られたが、数日で変化を受け入れ、活動を楽しみながら、少しずつ興味を高めることができた。</li> </ul>

### (3) 自分の気持ちを表し、伝える力は高まったか

#### **安心感と見通しにつながる日々の活動の積み重ね**

- ・朝の活動・朝の会は毎日継続して実施している。ねらいや手立てを明確にし、改善しながら取り組んできたことで児童生徒にとって「分かる」活動になり、毎日繰り返すことで安心感と見通しにつながった。
- ・安心感と見通しをもつことで、関心や意識が周囲に広がり、自分の気持ちを表出したり、関わりの中で自分の気持ちを伝えたりする姿が見られるようになった。
- ・微細であっても確実に表出できることが増えてきた。教師間で微細な表出を見逃さず周囲に伝えることで、児童生徒の気持ちを発信することができた。

#### **やるのが分かり、自ら取り組もうとする姿**

- ・一人一人の得意なことを生かした活動を取り入れることで、児童生徒が活動を楽しみ、自分から取り組んだり、気持ちを伝えようとする様子が増えた。
- ・自分の係活動だけでなく、友達の活動にも興味をもち注視するようになった。更に、友達の活動を自分がやってみたいという気持ちを発信することも見られるようになってきた。
- ・音の精選やシンプルな授業展開等、児童生徒にとって分かりやすい状況づくりを心掛けることで、働き掛けを受ける力が高まり、微細であるが自分の気持ちの発信が見られるようになってきた。

#### **集団の力、高まる活動への期待感**

- ・集団活動の活気に触発されて声を発したり腕を動かして気持ちを伝えたりと、力一杯活動に向かう様子が見られた。
- ・朝の会に期待感をもち、始まりをワクワクしながら待つようになり、笑顔で声を出したり、活動している人に顔を向けたりするようになった。楽しい活動が心の動きを活発にし、気持ちの表出につながっていると感じる場面が多く見られた。

### <課題>

#### **グルーピングの工夫と人と関わる機会の確保**

- ・グルーピングの工夫により各グループとも継続的に活動できる時間が大幅に増えた。それでも児童生徒の体調や感染症予防等により、グループでの学習や児童生徒同士の関わりが難しい場合が少なくなかった。様々な状況に柔軟に対応しながら人と関わる機会をつくることのできるよう、グループの構成メンバーや活動内容、ICT機器の活用方法等の一層の工夫が必要である。

#### **児童生徒理解の広がり**

- ・ケース検討会や授業づくり検討会を通して児童生徒の共通理解や意見交換を行ってきたが、微細な表出の読み取り等、担当するグループ外の児童生徒への理解が十分ではない面があった。グループ外の児童生徒との関わりが広がるよう、全職員での共通理解を進めていきたい。



### **授業評価記録用紙の活用**

- ・グループごとに活用しやすい様式を工夫することで、授業評価記録用紙の活用を図ることができたが、記入の解釈や活用の仕方がグループごとに違うものになってしまった。各グループの様式の長所を生かし、道川分教室として継続していただける様式を再検討したい。
- また、朝の活動・朝の会に特化した様式となっているため、他の学習場面でも活用できる授業評価記録用紙についても模索していきたい。

## 5 2年間のまとめ

### (1) 児童生徒の人との関わりの広がりについて

#### **卒業後の生活につながる関わる力を**

- ・1年目はキャリア教育の視点から「卒業後の生活に必要な力」について確認し、今何をすべきかを考えた。2年目はより具体化し「卒業までに身に付けたい力」として児童生徒一人一人の目指す姿を考え、関わりを広げるためのねらいや手立てを明確にし、児童生徒の変容に結び付けることができた。

#### **人と関わる機会の確保と毎日の継続的な取組**

- ・入院生活という制限の多い限られた場の中で、グルーピングを工夫してできるだけ人と関わる機会を確保し、改善を重ねながら朝の活動・朝の会を継続的に実施することで、児童生徒が見通しと安心感をもって活動に参加できるようになった。その結果、やることが分かり、やりたい気持ちの表出に結び付いた。友達への関心が高まり、感情の表出や自発的な動きの増加につながった。

### (2) 授業づくりについて

#### **多角的・多面的な視点での児童生徒の実態把握と共通理解、授業の方向性の共有と授業改善**

- ・アセスメントチェックリストや授業評価記録用紙の活用、授業づくり検討会やケース検討会の実施により、多角的・多面的な視点での児童生徒の実態把握と共通理解が進み、授業の方向性の共有と授業改善に結び付けることができた。

#### **4つの観点に沿った指導内容・方法の工夫と評価、改善の積み重ね**

- ・児童生徒の目指す姿に向けて、児童生徒にとって分かりやすい状況づくりである4つの観点に沿って効果的な手立てを整理して指導内容・方法を工夫し、授業評価記録用紙の活用や授業づくり検討会の実施によって評価と改善を積み重ねることによって、児童生徒に分かりやすく充実した授業づくりができた。児童生徒は期待感をもって楽しく活動する中で、人との関わりが広がり、自分の気持ちを表したり伝えたりすることが増えてきた。

### (3) 今後の取組について

2年間の研究を通して検証場面である朝の活動・朝の会は充実し、道川分教室独自の実践を行うことができた。また、人との関わりを広げる上での集団学習の意義や継続的な活動の積み重ねの大切さも確認できた。この2年間の成果を、来年度も引き継ぎ、更なる改善を図りながら取り組んでいきたい。

来年度は新生入生が加わり、児童生徒の入院する病棟も増える。児童生徒が関わり合える機会をできるだけ多く確保し、継続的に活動していく中で、人との関わりを広げ、自分の気持ちを表し、伝えていくことができるよう、より一層の工夫をし、授業づくりに取り組んでいきたい。

観	本時のねらい	本時の評価の基準	月 日 (月)	月 日 (金)	週全体での様子・変容等
観 点 1	友達や教師に「おはよう」と声を出して挨拶する。	◎ 自分から「おはよう」と言う。 ○ 促されて「おはよう」言う。 △ 声が出ない。			
	やりたい係の仕事を発声でアピールし、自分から積極的に取り組む。	◎ 積極的に声を出し伝える。 ○ 促されて声を出し伝える。 △ やりたいことを伝えない。			
	友達や教師と一緒に声を出して、歌う楽しさを味わう。	◎ 歌に合わせて自分で声を出す。 ○ 促されて声を出す。 △ 声が出ない。			
	学校の始まりを意識し、楽しい気持ちで積極的に活動に取り組む。	◎ 発声・手の動きがとても多い。 ○ 発声・手の動きが多い。 △ 発声・手の動きがあまりない。			
	相手に注目し自分で手を動かしておしぼりや呼名合図のボールの受け渡しをする。	◎ 自分から手を動かす。 ○ 促されて手を動かす。 △ 手を動かさそうとしない。			
	やりたい係の仕事を考え、積極的にやりたい気持ちをアピールする。	◎ 積極的に発声や手の動きで伝える。 ○ 発声や手の動きで伝える。 △ 自分からのアピールがあまりない。			
	名前を呼ばれた友達の方に顔を向ける。	◎ 自分から友達の方に顔を向ける。 ○ 教師の促しを受けて友達の方を向く。 △ 友達の方を向こうとしない。			
	自分の名前を呼ばれたら視線を合わせる。	◎ 視線を合わせる。 ○ しばらくしてから視線を合わせる。 △ 視線が合わない。			
	季節BOXに付いたひもを引っ張り続けて写真を出す。	◎ 自分からひもを引く。 ○ 何度か促されてひもを引く。 △ ひもを引かない。			
観 点 2	教師の言葉掛けに沿って、手にタッチをして挨拶をする。	◎ すぐにタッチをする。 ○ 時間は掛かるがタッチをする。 △ 手を動かさそうとしない。			
	呼名や言葉を掛けられた時に、10秒以内に声を出して応える。	◎ 10秒以内に声を出す。 ○ 声を出そうとする。 △ うつぶいて、反応が少ない。			
	「〇〇さんはどこですか？」の言葉掛けに沿って、友達に視線を向ける。	◎ 顔を挙げ、方向を変えて見る。 ○ 言葉掛けで、視線を向ける。 △ 見ようとしなない。			
	指導の手立て	本時の評価の基準	特記事項	特記事項	次週に向けて
観 点 2	冬の雰囲気を感じながら楽しく一日をスタートできるような展開、教材・教具であったか。	◎ 提示された内容を期待感をもって注目する。 ○ 提示された内容を概ね注目する。 △ あまり興味を示さない。			
	発声や身体の動きで気持ちを伝えたいような言葉掛けをしていたか。	◎ 言葉掛けによって発声や動作の変化が多くある。 ○ 言葉掛けによって発声や動作の変化がある。 △ 言葉掛けで心が動かない。			
	友達や教師と触れ合いを楽しめるような雰囲気づくりや配置がなされていたか。	◎ 自分から友達に触れたり、触れられることを受け入れたりする。 ○ 教師の支援を受けて触れたり触れられたりする。 △ 友達に関心が向かない。			
改善に向け取組	<気付いた課題→新たに取り入れたこと・改善したこと等>				

児童生徒の「自分の気持ちを表し、伝える姿」について（北2グループ）

氏名	実態 (コミュニケーションを中心に)	卒業後の目指す姿 (キャリア教育の視点から)	朝の活動・朝の会で目指す 「自分の気持ちを伝える姿」	朝の活動・朝の会における手立て (4つの観点から)
E	<ul style="list-style-type: none"> <li>話し掛けられると、耳をすましてじっと聴いている。声を覚えてくると、呼び掛けに応えようとして顔や身体を声のするほうに向ける。</li> <li>好きな音楽を聴いたり、楽しい雰囲気を感じたりしたときは、口や手を動かして、気持ちを表す姿が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活リズムが整い、安定した体調で生活している。</li> <li>周囲の人との触れ合いや活動に関心をもち、表情や身体の動き気持ちを伝えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師や友達の呼び掛けに口を動かしたり、声のする方に顔を向けたりする。</li> <li>教師や友達と活動する楽しさを感じ、表情や身体の動きで気持ちを表す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>表情を見ながらはっきりとした口調で話し掛ける。(言葉)</li> <li>友達とできるだけ近くで活動できるように、車椅子や人工呼吸器の位置を調整する。(姿勢)</li> <li>係活動の教材を自分で腕を動かして引けるように、指の間にひもをはさんで握りやすくする。(教材)</li> <li>友達や教師と活動する楽しさを感じるように、会のもち方を工夫して集団で行えるようにする。(展開)</li> </ul>
F	<ul style="list-style-type: none"> <li>24時間酸素マスクを着用しているので、表情を読み取るのが難しいこともあるが、声を掛けられた方向に視線を移すようにして周囲の様子を伺う姿が見られる。</li> <li>体調がよいときは、表情や目、手指の動きも活発になり、「あー」と発声をする姿も見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>安定した体調を維持しながら病院生活を送っている。</li> <li>呼名などの呼び掛けや日常的な言葉掛けに対して、表情や目や口の動き等で気持ちを表しながら生活している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師や友達の呼び掛けや挨拶に、視線や手指、口の動きで応える。</li> <li>教師や友達と活動する楽しさを感じ、視線や手指を動かして気持ちを表す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習の始まりや教師や友達が来たことが分かるように、1対1で向き合ってゆっくり挨拶や言葉掛けをして反応を待つ。(言葉)</li> <li>スイッチ教材を操作できるように、手指を動かしやすい体勢に整え、教材の位置を決める。(姿勢)</li> <li>少ない手指の動きで操作できるように、棒スイッチでルーレットを回して選曲する活動を取り入れる。(教材)</li> <li>友達や教師と活動する楽しさを感じるように、会のもち方を工夫して集団で行えるようにする。(展開)</li> </ul>
G	<ul style="list-style-type: none"> <li>担任など慣れた人の声ができる方向に視線を向けたり、顔を向けたりすることがあり、聞き分けている。</li> <li>体調がよいときには、声を掛けられたり、触れられたりすると視線を向ける姿が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活リズムが整い、健康な生活を送っている。</li> <li>好きな活動が増え、療養活動等で楽しく活動している。</li> <li>様々な人からの言葉掛けや関わりを受け入れ、表情や手の動きでコミュニケーションをとっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師の言葉掛けに、表情や手の動きで応える。</li> <li>教師や友達と活動する楽しさを感じ、視線や手の動きで気持ちを表す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒がしっかり聞き取れるように反応を見ながら分かりやすい言葉掛けを行う。(言葉)</li> <li>朝の活動や係活動などで顔や手を動かして自分の気持ちを表しやすいように車椅子に座る姿勢を整える。(姿勢)</li> <li>教材のひもを引きやすいように、教材の位置や肘の高さを調整する。(教材)</li> <li>活動に見通しをもち、安心して学習に参加できるように展開の仕方を一定にする。(展開)</li> </ul>

